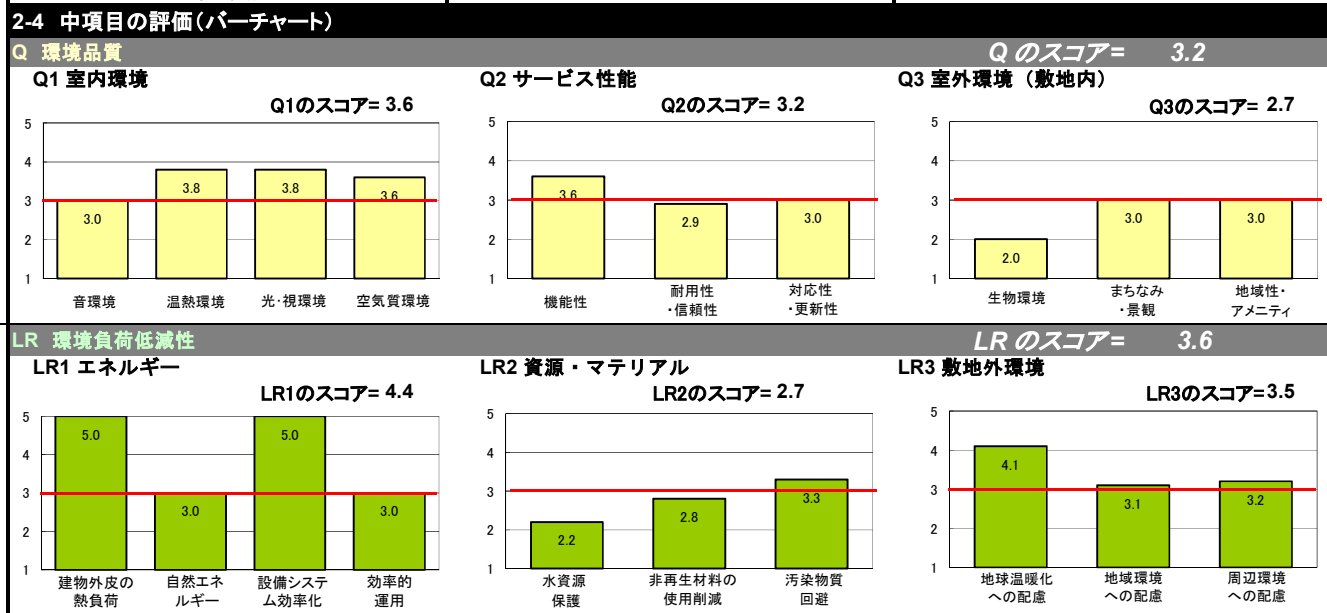
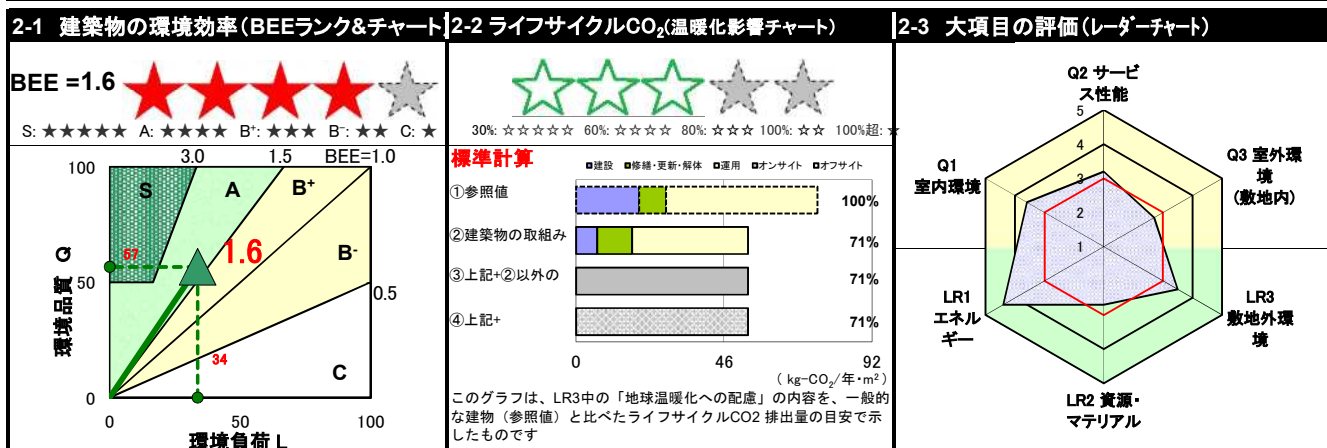


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22058

建築物名称	(仮称)矢向Ⅲ計画 新築工事
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 神奈川事業部長 菅野 宏昭
建築物の所在地	川崎市幸区古川町156番1
設計者氏名、建築士事務所名	渡邊 基弘 株式会社長谷工コーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	11,747.53㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和8年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

評価結果

1-1 建物概要				1-2 外観	22058
建物名称	(仮称)矢向Ⅲ計画 新築工事	階数	地上5F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください	
建設地	神奈川県川崎市幸区古川町156番1	構造	RC造		
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	420 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2023年1月6日		
敷地面積	5,181 m ²	作成者	島田祐樹		
建築面積	3,627 m ²	確認日	2023年1月6日		
延床面積	11,748 m ²	確認者	島田祐樹		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	景観に配慮した設計を形成	2.3/4.3	2.6
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	断熱等級4を確保 エントランス屋光率2.60 %を確保、A2タイプ屋光率3.25% を確保 庇を設置することでグレア対策をしている	5.4/7.0	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	4.4/5.0	4.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	2.5/4.7	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす ビニルクロス貼耐用年数20年 給水:SUS(C)、汚水排水:VP(B)、雑排水:VP(B)、Eは不使用	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	2.1/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な駐輪・駐車場の確保	0.3/0.4	4.1
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		4.4/5.0	4.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.2**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	4.4/5.0	4.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版 (仮称)矢向Ⅲ計画 新築工事					欄に数値またはコメントを記入					22058				
スコアシート		実施設計段階				重点項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質													3.2	
Q1 室内環境									0.40		-		3.6	
1 音環境								3.0	0.15	3.0	1.00		3.0	
1.1 室内騒音レベル								3.0	0.50	3.0		0.50		
1.2 遮音								3.0	0.50	3.0		0.50		
1.2.1 開口部遮音性能								3.0	1.00	3.0		0.30		
1.2.2 界壁遮音性能								3.0	-	3.0		0.30		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	-	3.0		0.20		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	-	3.0		0.20		
1.3 吸音								3.0	-	3.0		-		
2 温熱環境								3.0	0.35	4.0	1.00		3.8	
2.1 室温制御								3.0	0.50	4.0		1.00		
2.1.1 室温								3.0	0.63	-		-		
2.1.2 外皮性能			W			断熱等級4を確保		3.0	0.38	4.0		1.00		
2.1.3 ゾーン別制御性								3.0	-			-		
2.2 湿度制御								3.0	0.20	-		-		
2.3 空調方式								3.0	0.30	-		-		
3 光・視環境								2.7	0.25	4.0	1.00		3.8	
3.1 昼光利用								4.2	0.30	4.0		0.50		
3.1.1 昼光率						エントランス昼光率2.6 %を確保、C2タイプ昼光率3.25% を確保		5.0	0.60	5.0		0.50		
3.1.2 方位別開口									-	3.0		0.30		
3.1.3 昼光利用設備			W					3.0	0.40	3.0		0.20		
3.2 グレア対策								1.0	0.30	4.0		0.50		
3.2.1 昼光制御			W			庇を設置することでグレア対策をしている		1.0	1.00	4.0		1.00		
3.3 照度								3.0	0.15	-		-		
3.4 照明制御								3.0	0.25	-		-		
4 空気質環境								3.6	0.25	3.6	1.00		3.6	
4.1 発生源対策								4.0	0.60	4.0		0.63		
4.1.1 化学汚染物質						ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用している		4.0	1.00	4.0		1.00		
4.2 換気								3.0	0.40	3.0		0.38		
4.2.1 換気量								3.0	0.50	3.0		0.33		
4.2.2 自然換気性能								3.0	-	3.0		0.33		
4.2.3 取り入れ外気への配慮								3.0	0.50	3.0		0.33		
4.3 運用管理									-			-		
4.3.1 CO ₂ の監視								3.0	-			-		
4.3.2 喫煙の制御								3.0	-			-		

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.0	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応				3.0	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3	内装計画				3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.5	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R			5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上材の更新必要間隔	R			4.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R			5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり				1.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					—	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出					G	W		H	2.0
2 まちなみ・景観への配慮					G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上					G	W		H	3.0

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.70	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	-	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	2.7
1 水資源保護	W	R			2.2	0.20	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.8	0.60	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	W	R			2.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		-	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	W	R		LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別が1つある	4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	
1 消火剤	W				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.50	-	
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境					0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率が一定値以下	4.1	0.33	-	4.1
2 地域環境への配慮					3.1	0.33	-	3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.7	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			R	適切な駐輪・駐車場の確保	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R		4.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	
2 振動					-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					5.0	0.70	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	